

ディクテーション機能を活用した「話すこと [発表]」への取組 (NEW HORIZON English Course 1 Unit6 A Speech About My Brother)

①話・発

②協・発

③タブ

【ここがポイント！】

①「ディクテーション機能の活用の工夫」

これまででは、発表の練習として個人またはペアで発音練習や読み練習を行っていた。しかし、それだけでは、誤った単語の発音を正しいと思い込み、結果、それらを覚えてしまうことがある。ディクテーション機能により、自分の発話した単語が視覚化されることによって、生徒自身で音声矯正ができるメリットがある。

②「発表の練習の工夫」

本機能を使用する際、マイクを通して音声をコンピューターに吹き込む。マイクはマスク越しでは音声をとりにくいため、はっきりと口を大きく開けて話す様に指導を行う。「私の好きな芸能人について発表する」ことを目的としたALTとのインタビューテストの評価では、どの生徒も音声（発音）が聞き取りやすかったとの評価を得ることができ、個人練習の成果が表れていた。

【実践の目標】

新しく来たALTに自分のことを知ってもらうために、自分の身近な人や好きな芸能人についてわかりやすく話すことができる。

【実際の場面】

1. ディクテーション機能を用いて発表の練習を行う

マイクロソフトワード(365)に搭載されているディクテーション機能を活用し、原稿をタブレットに吹き込む。

2. 視覚化された文字を確認する

生徒自身が吹き込んだ音声が発音視覚化(文字化)され、正しい発音になっていなければ異なる単語が表示されるため、生徒自身がその文字を確認することができる。

3. 各自で再度、発表の練習を行う

2の活動で誤って表示された箇所の発音を再度練習し、正しい発音になるまで練習を行った。

4. ペアで発表を行う

ペアを変えながら、好きな芸能人について発表を行った。

5. 一人目のモデルの発表を見て発表の改善を行う

話し方や声量などが良い生徒を一名指名し、モデル発表を行わせた。その発表を見せ、発表のポイントを確認させ、再び異なるペアで発表を行った。

6. 二人目のモデルの発表を見て発表の改善を行う

2回目は、リアクションや即興的な表現などが良い生徒を一名指名し、モデル発表を行った。その発表を見せ、発表のポイントを確認させ、再び異なるペアで発表を行った。

7. 振り返りを行う

Google フォームでアンケートを作成し、授業に関する振り返りシートへの回答を行った。

【成果と課題】

【成果】

- ディクテーション機能を用いることで、生徒は生き生きと発音練習に取り組むことができ、教師側も個々に対しきめ細やかな指導をすることができた。
- カメラ機能を使用することで、お互いのプレゼンを撮影し、個人評価に基づく修正を行うことができた。

【課題】

- 今回初めてディクテーション機能を使用した。生徒はヘッドセットを使うといういつもと違う発音練習でとても意欲的に学習に向かっていた。しかし、ヘッドセットを使用しても他の生徒の音声を拾っていたり、機器の不調で音声認識されていなかったりなど、教科面ではなく、機器の操作面での課題が見られた。回数を重ね、スムーズに操作できるようにしていきたい。

大竹市立小方中学校

